

15

絵本

感性とデザインについて

Picture book

About the design and sensibility

デザイン学科・助手

Department of Design・Research Associate

大須賀 亜実 Ami OSUKA

はじめに、目的

漠然とあった欲求。作りたいものを行動に移し、これまで自身の学んできた一般で言う“デザインをする”こと概念にとらわれない、感覚的に制作を進めていく事を目的とする。

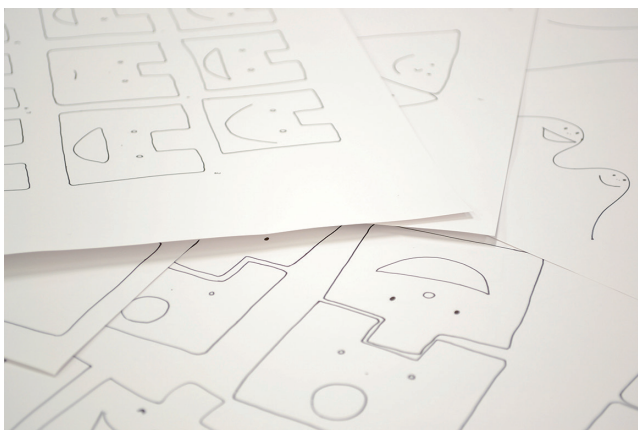
本作は“0.5exhibition”、NUAS DESIGNERS EXHIBITIONにて2012年に発表した絵本である。

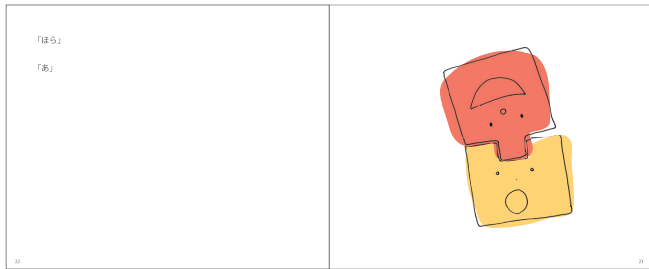
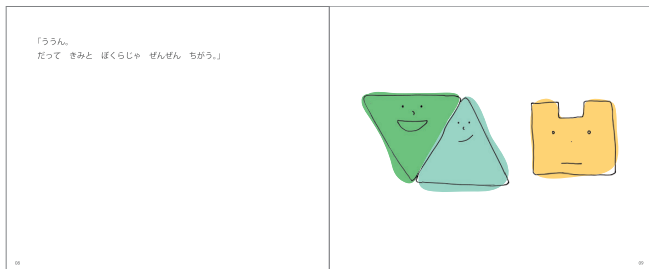
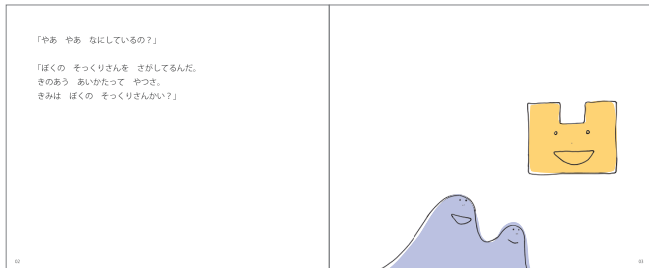
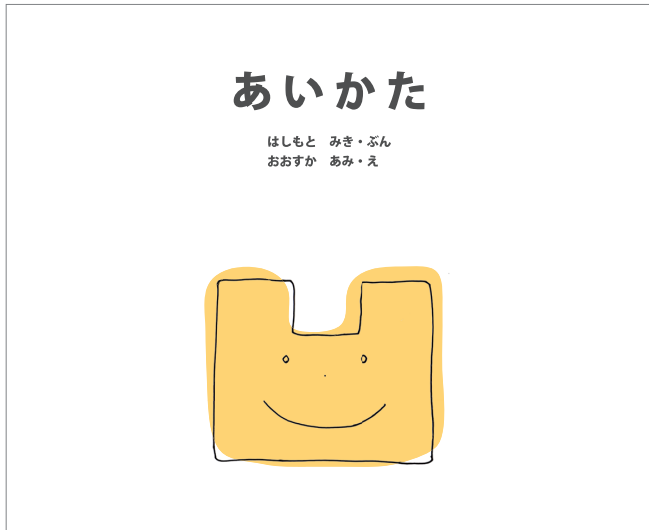
制作するにあたり、人の生活へ違和感なく、自然と受け入れられ、好意をもたれるもの、はっきりとした理由はないが、手にとってみたい、また手にとり好感のもたれるもの、居心地の良いものであること等を考えない、あくまで感覚的、直感的に手を動かし作業する事を基本とした。

全てではないが、作られたものは、数値に置き換えられ法則が生まれ、流通するものとなり得るであろう。しかし、人にはそこへは当てはまらない感覚的価値感があり、そして感性デザインとも呼ばれる。感性デザインとはあくまで直感的な感覚で作られることであり、客観的根拠が無い事を認識している。ただし、決してその客観的根拠があるわけではなしに、これで良いと場合によって断言出来さえずる、興味深い表現を持っている。

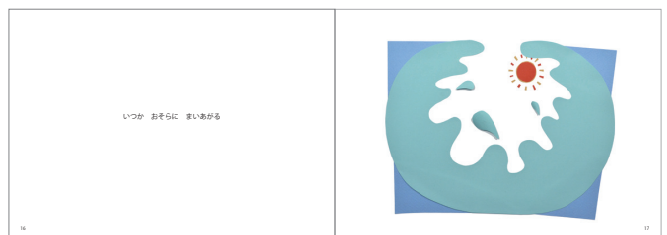
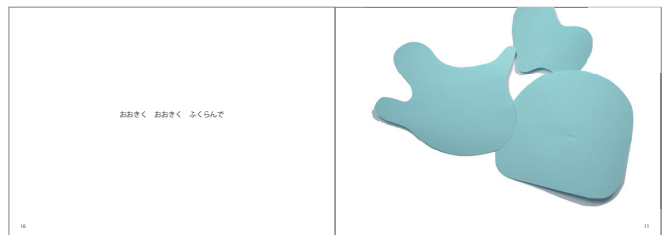
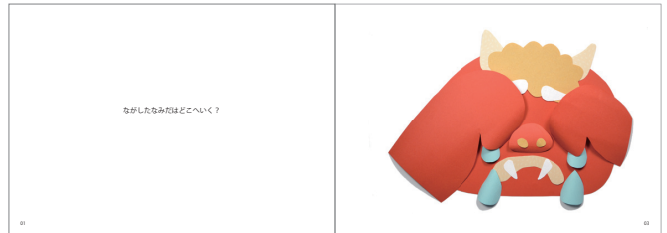
謝辞

本稿の発表絵本の文や主旨をご理解いただき、依頼をお引き受けご執筆くださいました橋本美樹(クリエイター)氏に、厚く感謝申し上げます。





絵本「あいかた」／“0.5exhibition”・NUAS DESIGNERS EXHIBITION
2012年／W257×H210(一部抜粋)



絵本「なみだ」／“0.5exhibition”・NUAS DESIGNERS EXHIBITION
2012年／W297×H210(一部抜粋)

内容

絵本「あいかた」では、似ていたり、同じ型をしたもの同士だけが相方となるのではなく、違う型のもだからこそ気の合う相方となりうるということを表現した作品である。

絵本「なみだ」では、なみだの流れた行方を明るく想像力豊かに表現した作品である。